

## 1. 事業について

「住民主体の地域づくり」は長らく言われ、それを考える人が住民にも、行政にも多くいるが、効果的に機能している事例は限られている。住民主体の地域づくりに多くの人が意欲も能力もあるのに、うまくいかないのは「違う価値観の受止に慣れていない」「地域運営に必要なスキルや心構えの認識の不足」「実践、経験知の共有不足」などがあげられる。しかし、市民の中には、自ら地域を良くしていく意欲も能力もある。この事業では、実践者の経験からのノウハウを学び、対話やコミュニケーションにより、試行錯誤した経験を共有し活動づくりに挑む。また、このプロセスによる必要なノウハウを、多くの人が使える形に体系化し、持続可能な社会・地域づくりのために活動する団体や個人の力と行動を高めていく。

## 2. 事業目的

地域の担い手として活動する組織の力を高めること、仲間や支援者との継続的な関係づくりに必要なこと、自団体の価値を生み出し、自分たちが起こしたい地域の変化のためには何が必要かを学び、行動につなげるNPO・市民活動・地域活動団体のための連続講座を実施する。

全国のトップランナー・実践者から知見を学び、参加型で、対話やコミュニケーションを図りながら、自分たちの活動基盤を構築する。

- ・山形県民が市民活動・地域活動にさらに関わりやすくなり、活動者、担い手が増える。
- ・活動のビジョン・ミッション・ゴールを設定し、活動計画が立てられるようになる。
- ・組織設立・運営の知識を習得し、組織を立ち上げる準備ができる。
- ・様々な市民活動を知ることで、自分の活動との関連性を見つける。

## 3. 参加者について

### 1. 連続講座

講座内容	ビジョン・ミッション	協力のテクノロジー	事業計画立案講座	合計
参加人数	16	25	14	55

### 2. 学び合いの会・交流会

内容	交流会	団体の未来を描いてみよう！	災害マネジメントを学ぶ	事業計画立案研修事後勉強会	合計
参加人数	15	8	19	6	48

## 4. 事業内容

### 1. 講座（3回）

- ①ビジョン・ミッションの考え方、作り方セミナー
- ②協力のテクノロジー 関係者の相利をはかるマネジメント
- ③事業計画立案研修

### 2. 学び合いの会（3回）：分野での「持続可能な社会・地域づくり」とはどのようなものか、活動がど

のようなものかを、地域の人たちと一緒に考え創り出していく。

3. 既存の活動団体との交流会（1回）：地域で活動する団体、活動したい個人、講座参加者との交流会の実施

## 5. 事業実施報告

### 【1】連続講座

<1> 「目指す地域の姿（ビジョン）と団体の使命（ミッション）」を考えよう

#### 1. 事業内容

日々の活動に追われて、目指すものがぶれたり、仲間と共有できていなかったりすることのないよう、活動の要となる団体の「ビジョン」「ミッション」を明確にし、活動目的と目指す成果に向き合い、ありたい地域や社会の姿を見据えた自団体の活動の柱を立てることを学ぶ。

自分たちの独自のビジョン（目指す社会の姿）とミッション（社会における役割）を掲げたうえで、社会課題の存在を知らせ、いつまでに、どのような手段で、どの程度までその課題を解決していくのか、自分たちで決めていくための手法についてワークショップを通して習得した。

#### 2. 講座概要

##### 1) 日時と場所

日時：2023年10月14日（土曜日）午前10時から午後12時

場所：ZOOMでの開催。

##### 2) 参加者：16名

##### 3) 対象：市民、地域活動団体・公益活動に興味がある県民の方

##### 4) 講師 長浜 洋二 氏 モジョコンサルティング合同会社代表プロフィール

CTI 認定プロフェッショナル・コアアクティブ・コーチ（CPCC）・町田市地域活動サポートオフィス事業統括ディレクター・日光 CSR 推進連絡会 アドバイザー・日本ファンドレイジング協会ファンドレイジング・スクール講師（マーケティング/ゼミ）1969年山口県生まれ。米国ピッツバーグ大学公共政策大学院卒。NTT、マツダ、富士通で約15年にわたりマーケティング業務に従事。協働推進、組織開発、戦略構築、コミュニケーションなど、コミュニティ、組織、個人が抱える様々な課題の解決を支援するモジョコンサルティング合同会社を設立。著書に『NPOのためのマーケティング講座』

##### 5) 内容 ・ビジョン・ミッションとは何か

・良いビジョン・ミッションとは？

・ビジョン・ミッションづくりの4ステップ

ステップ1「団体の歴史を紐解く」・ステップ2「社会環境を整理する」

ステップ3「ステークホルダーを整理する」・ステップ4「ビジョン・ミッションを描く」。

##### <2> 『協力のテクノロジー 関係者の相利をはかるマネジメント

～相利評価表を使って仲間と資金を増やそう～』

市民活動・地域活動団体が、団体の目的の達成や社会課題の解決のために欠かせない他セクターとの「協力」「活動への参加者・ボランティアを増やしたい」「行政や企業、地縁組織と協働したい」「活動を継続していくための後継者を探したい」など、「協力」が求められる機会は数多くあります。社会が多



## 令和5年度山形県NPO活動促進補助事業 協働助成事業（テーマ希望型） 学ぶ・つながる・行動する「活トレ」事業報告

様化するなかで、それぞれのセクターの目的や考え方の「違い」を互いが受け入れ、「協力」関係を組み立てるコツやバランスを掴む。『協力のテクノロジー 関係者の相利をはかるマネジメント』から、協力・協働を進めていくために必要となるポイントを学ぶ。

### 1) 日時と場所

日時：2023年11月18日（土曜日）午前11時から午後1時

場所：山形市総合福祉センター 3階 会議研修室1（山形県山形市城西町2丁目2-22）

### 2) 参加者：25名

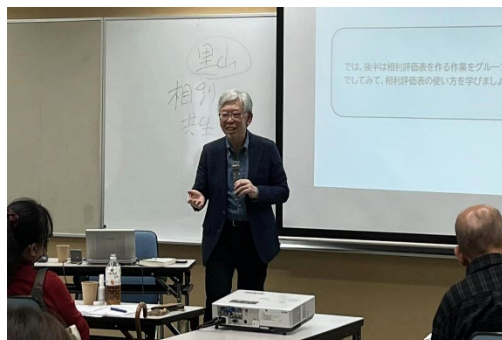
### 3) 対象：市民、地域活動団体・公益活動に興味がある県民の方

### 4) 講師：松原明氏（協力世界アカデミー 代表理事）

1960年大阪生まれ。1994年NPO立法を推進する「シーズ・市民活動を支える制度をつくる会」を創設。事務局長、代表理事を務める。NPO法、認定NPO法人制度、NPO法人会計基準、NPO法改正などNPO支援制度の創設を推進した。現在、「協力世界」を主宰し、NPOや地域づくり等で人々が協力を築くための技術を、誰でも学べるように「協力のテクノロジー」として体系化を進めている。

### 5) 内容 講義

- ①「協力」の基本的な考え方 ②他セクターとの協力関係の組み立て方
- ③ワーク「相利評価表の使い方」④質疑応答



### < 3 > 「自分たちが地域でやっていきたいことを実現するための講座 ～事業計画立案研修～」

活動を継続することが目的化してしまい、何のために何を目指して活動をしてきたのか（ビジョン、ミッション）が見えなくなってしまう、新しく活動に参加した人とビジョン、ミッションが共有されにくい状況が生まれてしまう。また、ビジョン、ミッションが明確でないと、会員、地域の人たちからの支援を得にくくなる。3回目の講座では、長年活動を続けてきた団体に対しては、自分たちが実現したい地域に向けて現在の活動の方向性の確認や活動をふりかえった。

これから本格的に活動を開始しようとする団体も含めビジョン・ミッションの明確化を行い、その上で今後の活動計画を立てた。

### 1) 日時と場所

日時：2023年12月17日（日）10:00～15:00

場所：山形ビックウィング4階 会議室402 〒990-0076 山形県山形市平久保100

対象：団体や活動のふりかえりを考えている団体、これから活動を始めようとしている方、事業申請における活動計画立案を考えている団体 5団体程度（1団体から複数の参加が望ましい。）

# 令和5年度山形県NPO活動促進補助事業 協働助成事業（テーマ希望型） 学ぶ・つながる・行動する「活トレ」事業報告

2) 参加者:14名

3) 対象:活動歴15年以上の団体から今年活動を本格化する団体まで6団体、また社会福祉協議会職員2人の参加もあった。3団体は複数のメンバーが参加した。

4) 講師:椿原 恵氏

1971年生まれ。地方自治体・医療法人・社会福祉法人・NPO/NGO等を対象とした組織開発・人材開発に従事。大牟田市社会福祉協議会 事務局次長、岡山県社会福祉協議会岡山県くらし復興サポートセンター 副所長を経て、2023年4月から社会福祉法人倉敷市社会福祉協議会 課長主幹。九州大学非常勤講師、日本評価学会認定評価士、認定アート療法士。

5) 内容

- ・目線あわせ:共通認識・共通言語をもつ(ミッション・ビジョン・バリュー)
- ・自分たちは「何のために」「どんな地域にしたい」のかを付箋紙に書き出す。
- ・活動の作り方

自分たちの活動(手段)を、③(目的)とは別の色の付箋紙に書き出し、「目的—手段」の関係でワークシートを使い整理し、2人1組になって共有。2人参加している団体は、その2人で整理。

- ・講師による解説・まとめ



## 【2】交流会

1) 日時と場所

日時:2023年12月17日(日)15:00~17:00

場所:山形ビックウィング4階 会議室402 〒990-0076 山形県山形市平久保100

対象:団体や活動のふりかえりを考えている団体、これから活動を始めようとしている方

2) 参加者:15名

3) ファシリテーター:やまがたファシリテーションネットワーク 代表 荒井信毅さん

4) 内容:地域で活動する団体、活動したい個人、講座参加者との団体紹介・情報交換会



### 【3】学びあいの会

#### <1> 団体の未来を描いてみよう！

- 1) 日時と場所 日時：2024年1月21日（日）13:30-16:30  
場所：東根公民館2階小ホール
- 2) 参加者：8名
- 3) ファシリテーター：やまがたファシリテーションネットワーク
- 4) 内容
  - ・団体のタイムライン・SWOT分析・地域における団体の存在意義
  - ・これから団体で何をやっていきたいか？
  - ・団体としては、何を選択していくのか？どんなプロセスでそれを決めていくのか？



#### <2> 学びあいの会：「持続可能な社会・地域づくり：災害マネジメントを学ぶ」

令和6年能登半島地震・活動報告

- 1) 日時と場所  
日時：2024年1月21日（日）19:00～20:00  
オンライン（ZOOM）
- 2) 参加者：18名
- 3) 報告者：ウェザーハート災害福祉事務所 代表千川原公彦さん  
ファシリテーター：やまがたファシリテーションネットワーク  
代表 荒井信毅さん
- 4) 内容：
  - ・令和6年能登半島地震、珠洲市での支援の報告
  - ・意見交換
  - ・支援金についてのお知らせ



#### <3> 自分たちが地域でやっていきたいことを実現するための講座・事業計画立案研修事後勉強会

- 1) 日時と場所  
日時：2024年2月9日（日）19:00～21:00  
場所：zoomでの開催
- 2) 参加者：6名
- 3) 内容 「問題」の定義/問題の種類・問題解決のアプローチ・問題解決技法  
ソリューションフォーカス  
ポジティブ・アプローチで役立つ手法「リフレクション：KPT」  
問題解決アプローチで役立つツール「ロジックツリー」  
経験から学ぶためのリフレクションの手順

## 6. 広報について

- 1) チラシの配布・・・山形県内4地域のNPO法人、任意団体へチラシを配送
- 2) チラシの設置 市民活動・NPO活動に関わる施設への設置
- 3) 共催団体への依頼

4) NPO 法人市民社会サポートやまがたでの情報発信：ホームページ・Facebook

## 7. 地域の担い手の輪が広がるために必要なこと

### 1. コミュニティ参加の促進

地域の活動やイベントに参加することを促進し、地域の担い手が多様な人々に開かれたものであることを示す。地域住民や地域外の関係者が積極的に参加できる場を提供することが求められる。

### 2. 情報の共有

地域での様々な活動やプロジェクトに関する情報を広く共有する。ウェブサイトやSNS、地域新聞などを活用して、地域の担い手や興味を持つ人々に情報を提供し、参加を促す。

### 3. スキルやリーダーシップの育成

地域の担い手が必要とするスキルやリーダーシップ能力を育成するプログラムを提供すること。ワークショップやトレーニングセッションを通じて、地域のメンバーが自信を持って行動し、責任を果たすことができるよう支援する。

### 4. 協力と連携の促進

地域内の様々な団体や組織、企業などとの協力や連携を促進し、地域全体の発展に向けた取り組みを推進すること。相互の利益や目標を理解し、共同で取り組むことで、より効果的な成果が得られる。

## 8. 担い手が地域全体の発展や持続可能な社会の構築に貢献するためのアップデートの機会を作る

### <1>. 情報と体験：インプット

#### ①地域の活動への参加のハードルを下げる

- ・市内の支援機関、支援団体を知る
- ・実地体験で活動に触れてみる

#### ②地域への関心がアップすることで、地域の新たな視点を得る

- ・ロールモデルとなる団体の活動を見たり聞いたりし、自分の考えを深め、地域の課題や活動を知る
- ・共に学ぶ仲間と地域の向き合い方について考え、話し合う

#### ③活動を進めるためのスキルや団体運営に関する情報

- ・広報、資金調達、ファシリテーションなど、団体運営のための講座や勉強会でのフォロー

### <2>気づきの場：アウトプット

#### ④思いを整理するためのアウトプットの場

- ・地域の活動団体の活動紹介、実施活動（ワークショップ等）のグループトーク
- ・他の人の想いや活動について聞き、グループトークで話す。

①～④をおこなうことで、「私自身」「私の団体」の整理や確認ができる

### <3>維持の必要性

人とのつながりがやり遂げるための強さとなる

#### ①地域をよくしたいと思う同志の存在を認め合うことで、生まれる自信・安心

#### ②情報交換しあえる仲間の存在により課題の共有、困った時の工夫や協力

- ・グループトークで意見交換
- ・先輩団体とのつながり
- ・交流会でのフォロー

### <4>次のステップへ

#### ①これから活動する人は「一步踏み出す勇気が出た」「地域で活動できる視野が見えた」

#### ②すでに地域で活動している人は「さらに効果的な支援」「団体の活動、運営をもっとよいものに」

<1>から<4>を実行、継続し、アップデートすることにより生まれるアウトカム

- ・活動している人たちがよりよく継続できることで、持続可能な活動が山形県で展開される
- ・新たに活動に踏み出す人が、山形県に増える